

第 28 回 福島問題研究会 議事録 (ダイジェスト版)

日時：平成 29 年 10 月 16 日 (月) 14:30~17:00

場所：化工会応接室

出席者：(敬称略) 横堀、小林、中尾、橋本、鈴木、郷 (記録)

1. 前回議事録

別作成済の最終案通り.

2. 1F 現地視察 (見学会) の調整状況

12 月 14 日予定の見学会；横堀説明スケジュール案 (別紙：横堀)，参加人員が一般会員+3 人で，10 名となった (参加氏名別紙)．今後細かいことはつめる．

関連して，①東電に訪問依頼書を提出 (別紙) した，

②東電からスケジュール送ってきた (別紙)，

③後日，参加者の ID リストを提出する．

3. 関連情報 (紹介／意見交換)

(1) (小林) 経過としては，6 月の化工会理事会で，従来委員会は終了し，通常組織研究会で継続となったが，事実は何もしない．沼田氏からの意見などを長谷部委員長に伝えたが，そこまで．化工会のポジションは変わらず．

(2) (鈴木) 10/4 第 4 回，IRID の人から，「1F PCV 腐食の耐震性への影響評価」の話が予定されていたが，鈴木は別件あり不参加．議事録も未だ．

#PCV (鉄製) 水漬けで，長期で大丈夫か？→PCV 材のモニターもやっていない状況．

(3) (横堀) 学会シニアネットワークのシンポジウムの報告，10 月/7 日，原子力学会シニアネットワークの活動，東京大武田先端ビルにて．

題「エネルギー政策の展望と福島復興に向けて」

当日配布資料あり (横堀，郷所持)

(4) 廃炉汚染水対策中央会議の前段階として「廃炉・汚染水対策チーム会合／事務局会議 (8/31 第 46 回)」というのがある，その議事録について質疑．

#汚染水漏れ事故に係る安全対応について．詳しくは以下参照．

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning/committee/osensuitaisakuteam/2017/09/index.html>

(5) OECD/NEA (国際／経済協力開発機構/原子力機関) の日本における運営を担う機関，エネルギー総合工学研究所が「シミュレーションから導き出した“現時点で最も確からしい”としている原子炉1号への注水量」を公開した．事故当初の数日間「冷却水はほとんど炉心に届いていない」というもの．→ 結果推定として，熔融炉心 (コリウムという) とコンクリート相互作用 = 成分間の物理的変化，化学的変化のこと，MCCI (Molten Core Concrete Interaction) で浸食混成物となり，3月12日の午後7時過ぎには、侵食はおよそ格納容器底部コンクリート深さ2.1メートルまで達していたと推定される (1号機 MCCI 総量300トン) など．

① SAMPSONコードによる事故事象進展の解析，内藤正則，一般財団法人エネルギー総

合工学研究所，平成27年9月11日(金)；専門家向け，このサイトは面白い，図5-4が注水量の推移という．

[http://www.aesj.net/document/\(B-2\)内藤.pdf](http://www.aesj.net/document/(B-2)内藤.pdf)

②NHKスペシャルの紹介サイト；9/20，一般向け，「福島原発事故、原子炉に届いた冷却水は「ほぼゼロ」だったと判明」のサイト；

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/52931?page=3>

③(財)エネルギー総合工学研究所のホームページ；

http://www.iae.or.jp/research_groups/nupec/safety_analysis/

ここでは，安全，配管減肉解析などの検討もされているらしい．

5. 中長期ロードマップと NDF 技術戦略プラン 2017 (意見交換)

「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ」について，横堀より，議論点ピックアップ表(横堀；別紙)を作られ，質疑した．

#NDFの役割強化について；内部の人にはわかっているということだが，外部には廃炉推進の体制はわからない状況．学協会を含め，化工会の参画の程度もあいまい．

#1, 2号炉デブリ取り出しについて；本来の炉底部デブリ取り出しの前に，屋上のプールの燃料を取り出さねばならぬ，工程も3年延びたような表現になっている．3号炉は爆発がなかったため，放射性物質が外部に出ず，それは良かったが，燃料取り出しはさらに大変になるだろう．

#「廃炉工程での優先順序が(やっと)見えてきた。」段階という，理事長総括が言われている．

経産省，東電，廃炉等支援機構の元資料は，以下参照，

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/decommissioning.html>

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/20171003.pdf>

http://www.dd.ndf.go.jp/jp/strategic-plan/book/20170831_SP2017FT.pdf

6. その他：次回日程等

(1)(橋本)NDF作成の「廃炉のための技術戦略プラン2017について」の中の主要なリスク源として「吸着塔類、廃スラッジ、HICスラリー」が挙げられている。現実にはこれらに関連し容器からの“より完全な脱水”が問題になっているようだ。このような廃炉全体から見れば、細かいが化学工学的な検討が必要な問題はまだまだ多く残っている。化学工学会としても大学の協力を得て解決に貢献できる課題である。学会として動けないのか？

(2) 次回予定

日時：12月11日(月)14:30

場所：化学工学会会議室または応接室

以上